

小林市埋蔵文化財調査報告書第7集

小林市遺跡詳細  
分布調査報告書

1993

宮崎県小林市教育委員会

## 序

小林市は、宮崎県の南西部、霧島火山の麓にあり、古くは日向国十六駅の一つである<sup>ひなもり</sup>夷守駅の所在地に比定されるなど、歴史と伝説を残す町です。現在は花と星空と湧水の美しい田園観光都市として発展を続けています。

当市では、年々増加する開発事業から文化財を保護するため、文化庁、県教育委員会の補助を受けて平成4～5年度の2ヶ年事業で市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、150ヶ所以上の遺跡の分布が確認されました。

これらの遺跡は、古代の人々が私たちに残してくれたかけがえのない遺産であり、各地でこれらを保護し、整備しようという動きが活発になっています。

この貴重な文化遺産を後世に伝えていくために今何をすべきなのか、この報告書がそれを考える一つの資料となることを願ってやみません。そのためにも、皆様にこの報告書をご覧いただき、文化財に対する理解をより深め、事前の開発協議等に活用していただければ幸いです。

最後に、調査にあたり、ご指導、ご協力いただきました宮崎県文化課の方々をはじめ、踏査、試掘等に快くご協力くださいました地元の方々、また調査、整理作業に従事くださいました皆様に対して厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

小林市教育委員会

教育長 瀬戸口 克彦

## 例 言

1. 本書は、小林市教育委員会が平成4～5年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した市内遺跡詳細分布調査の報告書です。また、国・県・市指定の文化財についても合わせて報告しています。
2. 指定文化財については、その指定地内等で開発事業を行う場合は、文化財保護法、宮崎県文化財保護条例、小林市文化財保護条例等に基づく現状変更許可申請を行い、事前に許可を得ることが必要です。
3. 本書に掲載された遺跡（埋蔵文化財）は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。
4. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、文化財保護法により「遺跡（工事）に着手しようとする日の60日前までに文化庁長官に届け出る」必要がありますので、土木工事等の計画段階から小林市教育委員会社会教育課（宮崎県小林市大字細野300番地・TEL0984-23-1111）または宮崎県教育委員会文化課（宮崎市橋通東1丁目9番10号・TEL0985-24-1111）へ事前に照会・協議してください。  
また、国および地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。
5. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性格上、現在、未発見で工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官に届け出る」必要があります。そのため、「周知の埋蔵文化財包蔵地」の周辺で工事等を計画する場合は事前に小林市教育委員会社会教育課に照会してください。
6. 本書および埋蔵文化財に関するお問い合わせは、小林市教育委員会社会教育課または宮崎県教育委員会文化課へお願いいたします。
7. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の許可を得た、同院発行の25,000分の1地形図を複製したものです。

## 凡 例

1. 埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は、地図上に□（赤色）で示した。古墳の場合、一基ずつは▲（赤色）で、古墳群は範囲を□（緑色）で示した。また城館跡は□（青色）、指定文化財は●（青色）で示した。
2. 地図の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。
3. 「遺跡番号」は、散布地・城館跡等は一番号とし、古墳群については群に対し一番号を付した。
4. 各遺跡を七地区に分け、1000番台は北西方地区、2000番台は南西方地区、3000番台は東方地区、4000番台は真方地区、5000番台は細野地区、6000番台は水流追地区、7000番台は堤地区とした。
5. 遺跡名は、原則として小字名にしたがい、一部のものについては通称・俗称によった。また、遺跡範囲の明確でないものについては遺跡群とした。
6. 地図は、市内平面図（5千分の1）の範囲にしたがい、①～④に割付している。地名表備考欄の丸数字はこの割付番号と一致している。また、遺跡が2区画以上にまたがっている場合は、該当する数字をすべて記している。
7. 遺跡の所在地は、大字名、小字名で示した。地番については、小林市教育委員会および宮崎県教育委員会文化課へ照会してください。
8. 調査の組織

調査主体 小林市教育委員会

教 育 長 山 口 寅一郎（～平成5年12月）

瀬戸口 克 彦（平成6年1月～）

社会教育課長 川 畑 正 一（～平成5年3月）

黒 木 英 夫（平成5年4月～）

社会教育係長 有 薊 克 己（～平成5年3月）

原 口 勝 年（平成5年4月～）

主 事 川 畑 静 子（～平成5年3月）

小 田 光 秋（平成5年4月～）

調 査 員 中 村 眞由美

調 査 補 助 員

整理作業員

## 目 次

○ 序	.....	1
○例	言.....	2
○凡	例.....	3
○目	次.....	4
○埋蔵文化財包蔵地地名表		
1. 小林市の地理的・歴史的環境	.....	5
2. 地区別解説		
1) 北西方地区 (1001～1038)	.....	7
2) 南西方地区 (2001～2041)	.....	7
3) 東方地区 (3001～3038)	.....	8
4) 真方地区 (4001～4013)	.....	8
5) 細野地区 (5001～5017)	.....	9
6) 水流迫地区 (6001～6005)	.....	9
7) 堤地区 (7001～7011)	.....	9
3. 埋蔵文化財包蔵地地名表	.....	11
○試掘調査		
1) 生駒地区 (平成4年度)	.....	19
2) 橋谷地区 (平成5年度)	.....	20
3) 杉玉地区 (平成5年度)	.....	20
○指定文化財一覧		

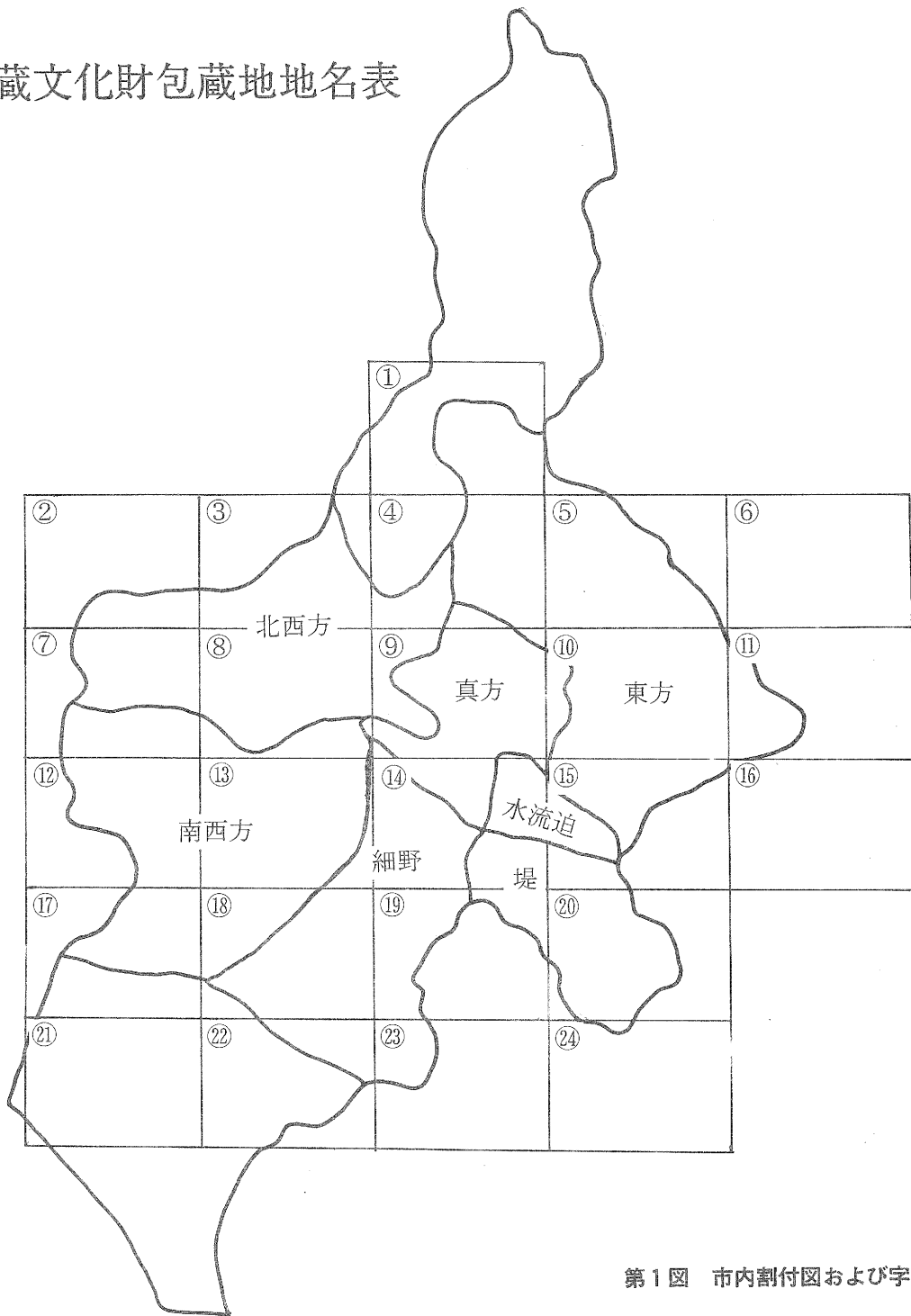
## 挿 図 目 次

○市内割付図および字図		
○平成4年度試掘位置図	.....	19

## 図 版 目 次

○図版1 試掘作業風景 (橋谷地区)	.....	20
○図版2 試掘状況 (杉玉地区)	.....	20

# 埋蔵文化財包蔵地地名表



第1図 市内割付図および字図

1. 番号は地図の番号と一致している。
2. 旧番号は昭和51年度刊行の「全国遺跡地図－宮崎県－」の遺跡番号である。
3. 地名表備考欄の丸数字は割付図の番号および市内平面図（5千分の1）の図面番号と一致する。

# 1. 小林市の地理的・歴史的環境

## ○地理的環境

小林盆地は、北を四万十層群<sup>しまんと</sup>からなる裏日向山地<sup>うらひゆうが</sup>、西を加久藤溶結凝灰岩<sup>かくとう</sup>からなる溶灰岩台地に、また南を霧島火山群<sup>きりしま</sup>によって囲まれている。地形は、北部の四万十層群を基盤とする扇状地と、南部の霧島火山の溶岩流末端から形成された新旧の扇状地、および海拔 200m前後のシラス台地とからなり、盆地底の大部分はシラス台地とそれが浸食されて形成された段丘からなり、最低位に氾濫原性低地<sup>いしごおり</sup>がかなり発達している。河川は、盆地内を石氷川<sup>いしごおり</sup>などの小河川が流れ、合流して大淀川の支流岩瀬川<sup>いわぜ</sup>となって東流し、西部では川内川支流<sup>せんだい</sup>の池島川<sup>いけしま</sup>が西流する。また、市内には湧水も多く、約50ヶ所点在する。<sup>1)</sup>

## ○歴史的環境

小林市内の遺跡は、昭和40年発行の『小林市史』<sup>2)</sup>によれば、約80ヶ所、昭和51年度刊行の「全国遺跡地図－宮崎県－」<sup>3)</sup>には、29ヶ所報告されている。

次に、これまで調査・報告されている遺跡について、時代別に概略を挙げる。

旧石器時代の遺跡はこれまでのところ確認されていない。

縄文時代の遺跡は、本田遺跡<sup>4)</sup>（大字東方字坂ノ下）、山中前遺跡<sup>5)</sup>（大字細野字山中前）、鬼塚遺跡<sup>6)</sup>（大字南西方字鬼塚）、こまくりげ遺跡<sup>7)</sup>（大字細野字出の山）などがある。なかでも本田遺跡は、前期の住居としては県内唯一であり、県指定を受けている。

弥生時代の遺跡の調査例としては、鬼塚ヒレ原遺跡<sup>8)</sup>（大字南西方字ヒレ原）の掘立柱建物跡がある。そのほか東方、永久津、南西方で石包丁が出土しており、また、小林小学校所蔵の重弧文土器片が知られている。

古墳時代の遺跡例は、地下式横穴墓<sup>ひがしじわら</sup>が東二原<sup>9)</sup>（大字真方字東二原）、下の平<sup>したひら</sup><sup>10)</sup>（大字水流迫字下の平）、新田場<sup>11)</sup>（大字真方字新田場）、尾中原<sup>12)</sup>（大字北西方字尾中原）等で確認されている。また、水落<sup>みずおとし</sup><sup>13)</sup>（大字細野字水落）、平木場遺跡<sup>14)</sup>（大字南西方字平木場）では住居跡が調査されている。

歴史時代では、日向国16駅の一つ、夷守<sup>ひなもり</sup>駅所在地が大字細野字夷守に比定されている。<sup>15)</sup> 平安時代の遺跡としては、竹山遺跡<sup>16)</sup>（大字細野字竹山）、こまくりげ遺跡から布痕土器などが出土している。中世の山城では、三山城<sup>みつやま</sup>（大字細野字城山）、小林城（大字真方字下の馬場）、内木場城（大字東方字内木場）、野首城（大字東方字野首）、岩牟礼城<sup>いわむれ</sup>（大字東方字城ヶ迫）<sup>17)</sup>などがあり、古石塔群が穂屋下（大字真方字穂屋下）、大久津<sup>おおくつ</sup>（大字東方字大久津）、下り<sup>さが</sup>（大字東方字下り）にある。近世では、水落遺跡

で江戸時代の墓が検出されている。

小林市では発掘調査はまだ数例であり、今後の調査の進展が望まれる。

#### 〈参 考 文 献〉

- 1) 経済企画庁総合開発局『土地分類図(宮崎県)』 1974
- 2) 志戸本次助『小林市史』小林市 1966
- 3) 文化庁『全国遺跡地図-宮崎県-』 1977
- 4) 鈴木重治「本田遺跡」『宮崎県史 資料編 考古1』宮崎県 1989
- 5) 石川恒太郎「中山ノ前住居跡」『宮崎県の考古学』吉川弘文館 1968  
※報告には「中山ノ前」とあるが、実際の字名は「山中前」であり、本書では後者を用いた。
- 6) 中村真由美「鬼塚遺跡」『小林市文化財調査報告書』第3集小林市教育委員会 1991
- 7) 田中 茂「こまくりげ遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告』(1) 宮崎県教育委員会 1973
- 8) 中村真由美「鬼塚ヒレ原遺跡」『小林市文化財調査報告書』第4集小林市教育委員会 1992
- 9) 永友良典・長友郁子・面高哲郎「東二原地下式横穴墓群・下の平地下式横穴墓群」『小林市文化財調査報告書』第6集小林市教育委員会 1993
- 10) 9) に同じ
- 11) 面高哲郎・長津宗重「新田場地下式横穴墓群」『宮崎県文化財調査報告書』第34集宮崎県教育委員会 1991
- 12) 石川恒太郎「尾中原地下式古墳」『地下式古墳の研究』帝国地方行政学会 1973
- 13) 長津宗重・長友郁子「水落遺跡」『小林市文化財調査報告書』第1集小林市教育委員会 1990
- 14) 安楽 勉「平木場遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告』(1) 宮崎県教育委員会 1973
- 15) 藤岡謙二郎「日向国」『古代日本の交通路Ⅳ』大明堂 1979
- 16) 5) に同じ
- 17) 平部嶺南『日向地誌』 1884



## 2. 地区別解説

### 1) 北西方地区 (1001~1038)

この地区は、市内北西部に位置し、地区南部を東西に流れる石氷川、種子田川(大淀川支流)および池島川(川内川支流)北岸から市北境の裏日向山地に至る丘陵地帯である。南部の河川流域と数ヶ所の湧水地を除けば、全体的に水の乏しい地区である。

遺跡は、池島川北岸の台地と真方川、永久井野川沿岸の小丘陵上に集中している。

今回の調査では、市西端の横峰迫で黒曜石製の打製石器が採集された。当市では旧石器時代の遺跡は今まで発見されておらず、今後この時代の遺跡発見が続くことが期待される。

入佐、橋谷などの池島川北岸の小台地上には縄文~弥生時代の遺物の散布がみられる。砂坂では昭和56、57年(1981、1982)に市文化財保存調査委員会によって発掘調査が行われ、磨製石斧、刷石、弥生土器片が多数出土している。<sup>18)</sup>

種子田川上流の猫坂では、平成3年3月に試掘調査が行われ、弥生土器片と住居跡のような落ち込みが確認されている。また、縄文時代の集石遺構も周辺で発見されている。<sup>19)</sup>

石氷川と種子田川にはさまれた尾中原では、昭和39年(1964)に地下式横穴墓が1基発見され、県教育委員会によって調査が行われている。<sup>20)</sup>

真方川、永久井野川沿岸の小丘陵上には縄文時代の遺跡が点在しており、特に永久井野、永久津の台地上で多数確認されている。

### 2) 南西方地区 (2001~2041)

この地区は、市内南西部に位置し、市南境の霧島連山から石氷川、池島川南岸に広がる扇状地帯で、東流する石氷川と西流する池島川の分水嶺となっている。また、地区東部に市内の水源池である出の山池がある。

遺跡は、主に石氷川、池島川南岸の台地、霧島連山北面標高320~500mの扇状地および出の山池周辺の丘陵上で散布が見られる。

池島川南岸の立野、榎ノ木、石氷川東岸の大出水を中心に縄文~弥生時代の遺跡が分布している。<sup>21)</sup>平木場では昭和47年(1972)に九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、その結果、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器の出土と古墳時代の住居跡が確認されている。<sup>22)</sup>

生駒・環野方面では縄文時代の集石遺構が8基ほど発見されている。このうち

4 基が平成4年度に県教育委員会によって調査されている。<sup>23)</sup>

出の山池南西の平川と、北東の上ノ園では、縄文～弥生時代の遺物が多数散布しており、平成5年度に平川で実施した試掘調査では、弥生時代と思われるピットが確認されている。(19ページ参照) また、同じく出の山池南にあるこまくりげでは、昭和44年(1969)に九州縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、その結果、縄文時代後～晩期の遺物・遺構および土師器、須恵器片と土壌が確認されている。<sup>24)</sup>

### 3) 東方地区 (3001～3038)

この地区は、市内北東部に位置し、市北境の裏日向山地から連なる丘陵を南流する浜の瀬川、谷の木川(大淀川支流)が浸食し、複雑な谷を形成している。

遺跡は、浜の瀬川、谷の木川沿岸のほとんどの台地上で確認されている。河川上流の小丘陵上では本田遺跡をはじめ、縄文時代遺跡が主であるが、中～下流沿いの野中、高津佐、大久津、谷ノ木、栗巣野、池田台地等では、弥生土器片等の散布が著しく見られ、弥生時代にこれらの台地上に一大集落が営まれていたことが推測される。<sup>25)</sup>

古墳時代の遺跡は現在のところ確認されていないが、隣接地の真方・水流迫地区では地下式横穴墓が多数確認されており、今後発見される可能性はある。

中世の遺跡としては、雲雀野、下り、大久津に石塔群がある。遺構としては、野首城、内木場(木葉)城が浜ノ瀬川沿いに、また、岩牟礼(岩瀬)城が岩瀬川沿いにある。谷ノ木川東岸の西水流では石垣状の構造物が確認されており、今後の調査が待たれる。<sup>26)</sup>

### 4) 真方地区 (4001～4013)

この地区は、市内中央部に位置し、浜の瀬川西岸の二原台地、石氷川南岸の小林原台地および石氷川、真方川(大淀川支流)流域の新田場台地からなる。

遺跡は、二原台地全域、小林原台地東部および新田場台地全域に散布が見られる。

二原台地では、弥生～古墳時代の土器片の散布が見られ、平成元年度調査された東二原地下式横穴墓群はこの台地の南縁に位置する。また、市内で現在確認されている唯一の円墳が同地下式横穴墓群南東にある。<sup>27)</sup>

小林原台地では、縄文、弥生、近世の遺物の散布および中世の古石塔群が見られる。また、正覚原では以前地下式横穴墓が発見されたことがあると聞く。<sup>28)</sup>

新田場台地では、土器片等の弥生時代遺物の散布が見られるほか、県指定史跡の小林古墳4～6号や新田場地下式横穴墓群<sup>29)</sup>など、市内の地下式横穴墓の群集地

でもある。

#### 5) 細野地区 (5001～5017)

この地区は、市内南部に位置し、霧島連山北東面に広がる扇状地と辻の堂川、<sup>あらいだし</sup>洗出川（大淀川支流）などの小河川が東流する平野部からなる。また地区東部高原町境には湧水<sup>せんだに</sup>千谷池がある。

遺跡は、千谷池周辺の台地、辻の堂川沿岸の小丘陵、および標高200～400mの扇状地で数多く確認されている。

千谷台地では池南側で大量の弥生土器片が出土している。辻の堂川南の小丘陵は現在団地となっているが、造成時に大量の土器と地下式横穴墓が数基出土したことが伝えられている。また、中世にはこの丘上に<sup>みつやま</sup>三山（<sup>よしどめ</sup>吉留）城が築造され、真方に小林城が造られるまで、小林の中心として栄えた。<sup>22)</sup> 同様に辻の堂川北の小丘陵は現在<sup>ながたびら</sup>永田平公園として市民に親しまれているが、この丘の南縁からも弥生土器片が大量に出土している。

竹山、前ノ原、山中などの扇状地では縄文～弥生時代の遺物が多数出土している。昭和38、39年（1963、1964）調査された山中前遺跡では縄文時代後期の敷石住居跡が確認されている。<sup>23)</sup>

#### 6) 水流迫地区 (6001～6004)

この地区は、市内東部に位置し、石氷川、谷の木川と合流した浜の瀬川が岩瀬川と名を変えて大きく蛇行しながら東流する、その南岸の台地および平野部からなる。

遺跡は、縄文～古墳時代の遺物が出土している。この地区では以前から地下式横穴墓がしばしば発見されることで知られており、県指定史跡小林古墳も地下式横穴墓と思われる。昭和56年（1981）に畑を耕作中に1基発見され、県教育委員会が調査を行っている。<sup>30)</sup>

#### 7) 堤地区 (7001～7011)

この地区は、市内南東部に位置し、岩瀬川西岸の台地と辻の堂川沿いに広がる平野部からなる。台地は北東に伸びる谷に幾つも分断され、複雑な様相を見せている。

遺跡は、岩瀬川、辻の堂川沿岸の台地上に分布するが、西部の<sup>はちまんぼる</sup>八幡原、<sup>かわなし</sup>川無を除けば、比較的分布密度が薄いようである。しかし、岩瀬川対岸の野尻町柿川内で大量の土器、石器が出土したとのことであり、遺跡包含層が深いため、表面採集では確認できなかったものと思われる。時代は縄文～弥生時代である。

八幡原台地南縁の小林商業高校裏および川無台地南縁からは弥生土器片が出土している。また、川無の西に存慶和尚ぞんけいの墓と呼ばれる古墓があり、地元の人々に親しまれているが、聞き取り調査によれば、この墓のある丘で以前内部を赤く塗った空洞が発見されたとのことで、地下式横穴墓ではなかったかと思われる。当地区では現在のところ地下式横穴墓の存在は未確認であるが、今後の発見が期待される。

#### 〈参 考 文 献〉

- 18) 未報告
- 19) 未報告
- 20) 12) に同じ
- 22) 6)、8) に同じ
- 23) 未報告
- 24) 7) に同じ
- 25) 5) に同じ
- 26) 2) に同じ
- 27) 9) に同じ
- 28) 2) に同じ
- 29) 11) に同じ
- 30) 10) に同じ

### 3. 埋蔵文化財包蔵地地名表

#### 1) 北西方地区 (1001~1038)

※旧…旧石器 縄…縄文 弥…弥生 古…古墳 中…中世  
近…近世 丸数字…割付図番号

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		地 図
					番号	備考	
1001	横峰迫第1遺跡	大字北西方字横峰迫	散布地	旧			②
1002	横峰迫第2遺跡	大字北西方字横峰迫	散布地	縄・弥			②⑦
1003	入佐遺跡群	大字北西方字横峰迫、上入佐	散布地	縄・弥			②⑦
1004	上入佐遺跡	大字北西方字入佐	散布地	縄・弥			②
1005	橋谷遺跡群	大字北西方字上入佐、橋谷	散布地	縄・弥			②
1006	砂坂遺跡群	大字北西方字下入佐、粥餅田、大字 南西方字巢田、鷹巣、榎ノ木	散布地	縄・弥			⑦
1007	猫坂遺跡群	大字北西方字猫坂、楠原、北牟田、 西牟田	散布地	弥			②③ 平成2年 度試掘
1008	中道遺跡	大字北西方字中道	散布地・ 集石	縄・弥			③
1009	調練場遺跡	大字北西方字調練場	散布地	弥			⑧
1010	観請原遺跡群	大字北西方字調練場、観請原	散布地	縄・弥			⑧
1011	下鷹塚遺跡	大字北西方字下鷹塚	散布地	弥			⑧
1012	尾中原遺跡	大字北西方字尾中原、穴水、穴水迫、 石塚	散布地	弥			⑧
1013	深草迫遺跡	大字北西方字草迫、弓場成、調練場、 観請岡	散布地	不明			⑧
1014	弓場成遺跡	大字北西方字弓場成	散布地	不明			⑧
1015	小桑ノ木遺跡	大字北西方字小桑ノ木	散布地	不明			⑧
1016	石氷遺跡	大字北西方字石氷	散布地	弥			⑧
1017	七ツ山遺跡	大字北西方字七ツ山	散布地	縄			③
1018	西之迫遺跡	大字北西方字七ツ山、西之迫	散布地	縄			③
1019	岡原後第1遺跡	大字北西方字西之迫、岡原、岡原後	散布地	縄	14-8		③
1020	岡原後第2遺跡	大字北西方字岡原後	散布地	縄			③

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
1021	岡原第1遺跡	大字北西方字岡原、西之迫	散布地	縄			③
1022	岡原第2遺跡	大字北西方字岡原	散布地	縄			③④
1023	檜ヶ迫跡群	大字北西方字檜ヶ迫	散布地	縄・弥			③
1024	岡原渡遺跡	大字北西方字岡原渡	散布地	縄・弥			③
1025	木ヶ八重遺跡	大字北西方字木ヶ八重	散布地	縄			④
1026	勘ヶ山第1遺跡	大字北西方字勘ヶ山、松ヶ尾	散布地	縄			④
1027	勘ヶ山第2遺跡	大字北西方字勘ヶ山	散布地	縄			④
1028	東川窪第1遺跡	大字北西方字東川窪	散布地	縄			④
1029	東川窪第2遺跡	大字北西方字東川窪	散布地	縄			④
1030	大平遺跡群	大字北西方字大平、東川窪	散布地	縄	14-23		④
1031	西川窪遺跡	大字北西方字西川窪、大平	散布地	縄			④
1032	永久井野遺跡群	大字北西方字永久井野	散布地	縄			④
1033	黒仁田迫遺跡	大字北西方字黒仁田、黒仁田迫	散布地	縄	14-25		④⑨
1034	黒仁田遺跡群	大字北西方字黒仁田、黒仁田迫、 <small>ゆき</small> 木山、有村	散布地	縄・弥			⑨
1035	深草遺跡	大字北西方字深草	散布地	弥			⑧
1036	森吹遺跡	大字北西方字鳥越、久津原、今村、 前ノ原	散布地	弥			⑨
1037	種子田遺跡群	大字北西方字種子田、種子田原	散布地	縄・弥			⑧⑨
1038	尾中原地下式横穴墓	大字北西方字尾中原	地下式横 穴墓	古	14-22		⑧

## 2) みなみにしかた南西方地区 (2001~2041)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
2001	平木場遺跡	大字南西方字ガラガ迫、山仁田	散布地・ 集落跡	縄～古	14-21		⑦
2002	立野遺跡	大字南西方字黒尻、立野	散布地	縄・弥			⑦
2003	榎ノ木第1遺跡	大字南西方字榎ノ木、無頭	散布地	縄			⑦

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
2004	榧ノ木第2遺跡	大字南西方字榧ノ木	散布地	縄			⑦
2005	ひとえばる 一重原第1遺跡群	大字南西方字三本松、粥餅田、中尾、 一重原、大字南西方字榧ノ木、一重 原	散布地	弥			⑦
2006	一重原第2遺跡	大字南西方字榧ノ木、一重原	散布地	縄・弥			⑦
2007	一重原第3遺跡	大字南西方字一重原	散布地	弥			⑦
2008	じんじんば 人參場遺跡群	大字南西方字一重原、猫塚、鬼塚	散布地	弥			⑦⑧
2009	黒沢津遺跡群	大字南西方字鬼目、黒沢津肥、無頭、 鬼塚、前鬼塚、小ノ山	散布地	縄			⑦⑫
2010	鬼塚遺跡群	大字南西方字鬼塚、仁田木、ヒレ原	散布地	縄・弥			⑦⑫
2011	下木場遺跡群	大字南西方字下木場、北肥、芹川山、 大出水	散布地	縄・弥			⑦⑧⑫⑬
2012	おおいでみず 大出水遺跡群	大字北西方字大出水、ヒレ原、宇都、 芹川山	散布地	縄・弥			⑫
2013	宇都遺跡	大字南西方字宇都	散布地	縄・弥			⑫
2014	堂丸遺跡	大字南西方字堂丸	散布地	縄・弥			⑫
2015	こノ山遺跡	大字南西方字小ノ山	散布地	縄			⑫
2016	窪田遺跡	大字南西方字窪田刈目、今石	散布地	弥			⑬
2017	刈目遺跡	大字南西方字下尻	散布地	弥			⑧
2018	十三塚遺跡群	大字南西方字今別府、杉玉、下水流、 十三塚、板橋、大字細野字壳子木	散布地	縄・弥			⑧⑨⑬⑭
2019	広庭第1遺跡	大字南西方字広庭、横道、平川谷	散布地	縄・弥			⑬
2020	板橋遺跡	大字南西方字板橋	散布地	弥			⑬
2021	広庭第2遺跡	大字南西方字広庭	散布地	縄			⑬
2022	広庭第3遺跡	大字南西方字広庭	散布地	縄			⑬
2023	ならきひら 檜木平遺跡群	大字南西方字檜木平、今石、生駒	散布地	弥			⑬
2024	巢ノ浦遺跡	大字南西方字天神山	散布地	弥			⑬
2025	こうのこ 孝の子遺跡	大字南西方字瀬戸岡	散布地	不明			⑬

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
2026	千才遺跡群	大字南西方字千才	散布地	縄・弥			⑫
2027	環野遺跡群	大字南西方字環野	散布地	縄・弥			⑫
2028	生駒第1遺跡	大字南西方字生駒	散布地・ 集石	縄	17-1		⑬⑭
2029	天神山遺跡	大字南西方字神山、生駒	散布地・ 集石	縄			⑬⑭
2030	生駒第2遺跡	大字南西方字生駒	散布地	縄・弥			⑬
2031	生駒第3遺跡	大字南西方字生駒	散布地	縄・弥			⑬
2032	平川第1遺跡	大字南西方字平川、生駒	散布地	縄・弥	17-2		⑬
2033	平川第2遺跡	大字南西方字平川、出の山	散布地	縄・弥			⑬
2034	こまくりげ遺跡	大字南西方字出の山、神の原	散布地	縄～弥	17-4		⑬⑯
2035	上ノ園第1遺跡	大字南西方字出の山	散布地	縄・弥			⑬
2036	上ノ園第2遺跡	大字南西方字出の山、神の原西	散布地	縄			⑬
2037	諏訪台遺跡	大字南西方字出の山	散布地	縄	17-3		⑬
2038	南ヶ丘第1遺跡	大字南西方字平川、生駒	散布地	縄・弥			⑬⑰
2039	南ヶ丘第2遺跡	大字南西方字平川、生駒	散布地	縄・弥			⑬⑰
2040	南ヶ丘第3遺跡	大字南西方字平川、出の山	散布地	縄・弥			⑬⑰
2041	堂ノ尾遺跡	大字南西方字堂ノ尾	散布地	縄			⑬

### 3) 東方地区 (3001～3038)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
3001	本・田遺跡	大字東方字坂ノ下	散布地	縄	14-10		④県指定 史跡
3002	富元遺跡	大字東方字風呂本	散布地	縄			⑤
3003	平瀬野遺跡	大字東方字長迫、大迫	散布地	縄			④
3004	上 藪 遺 跡	大字東方字上藪、高塚、寺地、中屋敷	散布地	縄			⑤
3005	はし 橋 満 遺 跡	大字東方字橋満	散布地	弥			⑤
3006	野首遺跡群	大字東方字寺地、中屋敷、野首、内門	散布地	縄			④⑤⑨



遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
3007	雲雀野遺跡群	大字東方字雲雀野、オカラ木、大字真方字井手神、野神原	散布地	縄・弥	14-24		④⑨
3008	オカラ木遺跡	大字東方字オカラ木、桃木野	散布地	縄			④
3009	後窪遺跡	大字東方字後窪、オカラ木	散布地	縄			④
3010	野中遺跡	大字東方字平才原、野中田	散布地	弥			⑤⑩
3011	平才原遺跡群	大字東方字平才原、野中田	散布地	弥			⑤⑩
3012	前田遺跡	大字東方字前田	散布地	弥			⑤⑩
3013	水天山遺跡群	大字東方字水天山、遊木猿、池ノ原、島本	散布地	縄			⑩
3014	池ノ上遺跡	大字東方字池ノ上、池ノ原	散布地	不明			⑩
3015	小原遺跡	大字東方字小原	散布地	縄			⑩⑪
3016	内木場(木葉)城跡	大字東方字内木場	散布地・城跡	縄・中			⑩
3017	大丸遺跡	大字東方字飯谷、赤木、木場前	散布地	弥			⑩
3018	高津佐遺跡	大字東方字高津佐	散布地	弥			⑩
3019	梶ノ場遺跡	大字東方字高津佐、梶ノ場、大原、下津佐	散布地	弥			⑩
3020	下津佐遺跡	大字東方字下津佐、集	散布地	弥			⑩
3021	山代遺跡	大字東方字山代	散布地	不明			⑪
3022	立山遺跡	大字東方字立山、上藪	散布地	縄	15-7.8		⑩
3023	谷ノ木原遺跡	大字東方字溝永原	散布地	縄・弥	15-9.10		⑩
3024	満永原遺跡	大字東方字満永原	散布地	縄・弥			⑩⑮
3025	西水流遺跡	大字東方字西水流	散布地・城館?	弥・中?			⑮
3026	崩渕第1遺跡	大字東方字崩渕	散布地	縄			⑮
3027	立山前遺跡群	大字東方字立山前、崩渕、地堂渕、茶磨川	散布地	縄・弥	18-1		⑩⑮
3028	大久津遺跡	大字東方字大久津、西水流、竹之迫	散布地・石塔	弥・中			⑩⑮
3029	今別府遺跡	大字東方字今別府	散布地	弥			⑮

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
3030	梅木原第1遺跡	大字東方字梅木原、大久津	散布地	縄・弥			⑮
3031	崩 測 第 2 遺 跡	大字東方字崩測	散布地	弥			⑮
3032	梅木原第2遺跡	大字東方字梅木原	散布地	縄・弥			⑮
3033	栗 巢 野 遺 跡	大字東方字栗巢野	散布地	縄・弥			⑮
3034	地 堂 測 遺 跡	大字東方字地堂測、茶磨川	散布地	縄・弥			⑮
3035	永 野 遺 跡	大字東方字永野	散布地	縄・弥			⑮
3036	池 田 遺 跡	大字東方字池田、城ヶ迫	散布地	弥			⑮
3037	野 首 城 跡	大字東方字野首	城館	中			⑤
3038	岩牟礼(岩瀬)城跡	大字東方字城ヶ迫	城館	中			⑮

#### 4) 真方地区 (4001~4013)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
4001	保 楊 枝 原 遺 跡	大字真方字部	散布地	弥			⑨
4002	二 原 遺 跡 群	大字真方字高山、柞別府、北二原、 瀬ノ口、東二原、下二原、大豆別府、 松の元、萩谷	散布地・ 古墳	弥・古			⑨⑩
4003	山 宮 遺 跡	大字真方字柞別府、長者	散布地	縄・弥			⑨
4004	木 切 倉 遺 跡	大字真方字木切倉	散布地	弥			⑩
4005	正 覚 原 遺 跡	大字真方字正覚原、餅田	散布地・地下 式横穴墓	弥・古	14-27		⑨
4006	新 田 場 遺 跡 群	大字真方字新田場、萩谷、松の元	散布地	弥・古	15-6		⑨⑩
4007	小 林 原 遺 跡 群	大字真方字海蔵、北小林原、南小林原、 大字水流迫字小林原、野中、荻窪	散布地	縄・弥・ 近			⑭
4008	小 林 城 跡	大字真方字下の馬場	城館	中・近	17-6		⑨⑭
4009	小林古墳 (4号)	大字真方字新田場	地下式横 穴墓	古			⑨県指定 史跡
4010	小林古墳 (5号)	大字真方字松の元	地下式横 穴墓	古			⑨県指定 史跡
4011	小林古墳 (6号)	大字真方字新田場	地下式横 穴墓	古			⑨県指定 史跡

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		地図
					番号	備考	
4012	東二原地下式横穴墓群	大字真方字東二原	地下式横 穴墓	古			⑩市指定 史跡
4013	新田場地下式横穴墓群	大字真方字新田場	地下式横 穴墓	古			⑨⑩

5) <sup>ほその</sup>細野地区 (5001~5017)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		地図
					番号	備考	
5001	神 の 原 遺 跡	大字細野字神の原、牛塚、宮ノ原	散布地	縄			⑬⑱
5002	<sup>のぼり</sup> 登立遺跡群	大字細野字登立、 <sup>みずおとし</sup> 水落、中島、新山、 脇ノ上、脇元、谷添、椿ヶ根、宮ノ原、 東宮ノ原	散布地	弥~古代			⑬⑭⑱⑲
5003	<sup>みつやま</sup> 三山(吉留)城跡	大字細野字城山、鳥居元	地下式横穴 墓・城館	古・中			⑭
5004	<sup>ながたひら</sup> 永田平遺跡	大字細野字永田平	散布地	弥			⑭
5005	<sup>はつ</sup> 八反遺跡群	大字細野字八反、山神原、夷守、青木、 <sup>わんづ</sup> 湾津	散布地	弥~古代			⑭⑲
5006	<sup>せん</sup> 千谷遺跡群	大字細野字千谷、湾津	散布地	弥~古代	17-9		⑲
5007	東宮ノ原遺跡	大字細野字東宮ノ原	散布地	弥			⑱
5008	<sup>ひなもり</sup> 夷守遺跡	大字細野字夷守、青木	散布地	弥	17-10		⑲
5009	<sup>だい</sup> 大王第1遺跡	大字細野字大王	散布地	縄・弥			⑱
5010	大王第2遺跡	大字細野字大王	散布地	縄・弥			⑱
5011	竹 山 遺 跡	大字細野字竹山	散布地	縄・弥			⑱⑲
5012	前ノ原遺跡群	大字細野字前ノ原、石坂ノ下、竹山、 千谷原	散布地	縄・弥	17-11		⑱⑲
5013	山 中 遺 跡 群	大字細野字山中、今坊	散布地	弥	17-2		⑱⑲
5014	山 中 前 遺 跡	大字細野字山中前	散布地	縄・弥			⑲⑳
5015	<sup>せだお</sup> 瀬田尾遺跡	大字細野字山中前	散布地	弥			㉓
5016	小林古墳(2号)	大字細野字城山	地下式横 穴墓	古			⑭県指定 史跡
5017	小林古墳(3号)	大字細野字城山	地下式横 穴墓	古			⑭県指定 史跡

6) 水流迫地区 (6001~6005)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
6001	穂屋下遺跡	大字水流迫字穂屋下、荻窪、上藪	散布地	弥			⑭⑮
6002	下ノ平遺跡群	大字水流迫字下ノ平、松原、村ノ前、岩瀬口、大字堤字金鳥居、矢櫃迫	散布地	矢・古			⑮県指定史跡
6003	小林古墳(1号)	大字水流迫字下ノ平	地下式横穴墓	古	18-2		⑮
6004	下ノ平地式横穴群	大字水流迫字下の平	地下式横穴墓	古			⑮
6005	松原遺跡	大字水流迫字松原、大字堤字金鳥居	集石	縄			⑮

7) 堤地区 (7001~7011)

遺跡 番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号		備 考
					地図	番号	
7001	八幡原遺跡	大字堤字八幡原、永田平、一本杉	散布地	弥			⑭
7002	堤遺跡群	大字堤字西ノ原、水呑迫、前門塚	散布地	不明			⑭
7003	川無遺跡群	大字堤字宇都、中尾、三本松	散布地	弥			⑰
7004	内侍塚遺跡群	大字堤字内侍塚、矢櫃迫、後迫	散布地	弥			⑮⑳
7005	平瀬遺跡	大字堤字平瀬	散布地	縄			㉑
7006	岩瀬遺跡	大字堤字岩瀬、内侍塚、三松	散布地	古			㉑
7007	木場遺跡	大字堤字所返、柏萩	散布地	弥			㉑
7008	前ノ迫遺跡	大字堤字前ノ迫、所返、中ノ迫	散布地	弥			㉑
7009	樽野遺跡	大字堤字樽野、中ノ迫、黒八重、一本杉	散布地	弥~古代			㉑
7010	阿母ヶ平遺跡	大字堤字樽野	散布地	弥			㉑
7011	正月返遺跡	大字堤字正月返、樽野	散布地	弥			㉑

## 試 掘 調 査

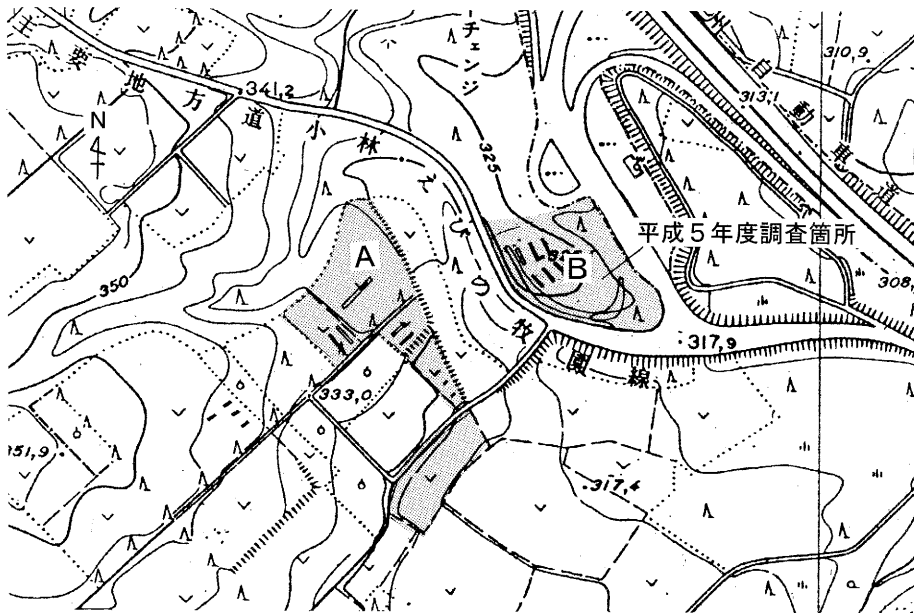
- 1) 生駒地区 (大字南西方字平川生駒)
- 2) 橋谷地区 (大字北西方字粥餅田)
- 3) <sup>すぎたま</sup>杉玉地区 (大字南西方字杉玉)

# 平成4年度

## 1) 生駒地区 (大字南西方字平川、生駒)

調査地点の現況は、原野、畑地である。平成4年12月に踏査を行い、試掘調査を平成5年1月27日から1月29日の3日間にわたって実施した。調査方法は、重機で1.5m×10～30mのトレンチを9ヶ所、その他に1m×4mの手掘りトレンチを7ヶ所設定した。基本層序は、第0層：表土、第I層：黒褐色火山灰土 (黒ボク土)、第II層：黒褐色火山灰土、第III層：橙色火山灰土 (アカホヤ)、第IV層：暗青灰色土 (カシワバン) である。土層の残存状態はおおむね良好である。試掘調査の結果としては、踏査ではほぼ全域でかなりの弥生土器の散布が見られるにもかかわらず、遺構は確認できなかった。しかし、土層の残りが良いことから考えるに、この地域では広い範囲で弥生時代の集落跡と思われる遺跡が存在するが、その密度はかなり低いものと推測される。なお、今回試掘できなかったA地点では、開墾時に多数の石斧、土器等が出土したとのことである。

なお、B地点は特産物販売所建設予定地であるため、市農林課の依頼により、平成5年6月10日から平成5年7月12日の9日間にわたって調査を行っている。その概要については、調査の結果、遺構・遺物は、アカホヤ面にピットが33基、黒褐色土中より弥生土器片および刷石がアカホヤ面に確認されている。



第2図 平成4年度試掘位置図 (小林インターチェンジ南) (縮尺1/5,000)

■ 部分は遺物散布地

## 平成5年度

### 2) 橋谷地区 (大字南西方字粥餅田)

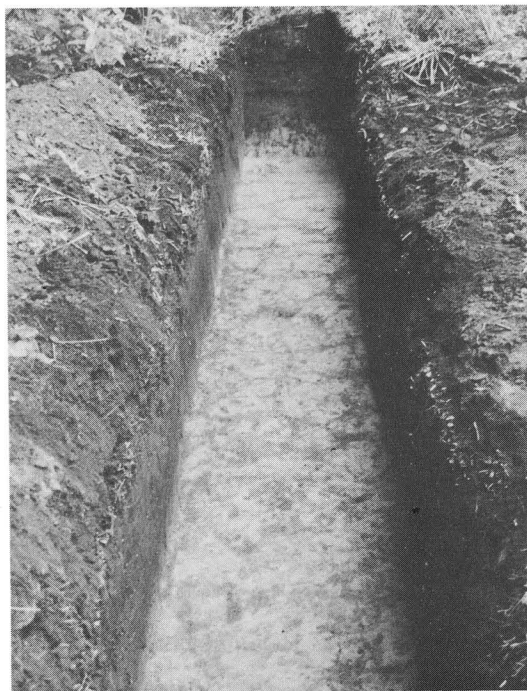
調査地点の現況は、畑地である。試掘調査は、平成5年7月19日から7月21日までの3日間にわたって実施した。調査は、手掘りで1.5m×1.5mのトレンチを4ヶ所設定した。基本層序は、第0層：表土、第Ⅰ層：黒褐色火山灰土(黒ボク土)、第Ⅱ層：暗褐色火山灰土、第Ⅲ層：橙色火山灰土(アカホヤ)、第Ⅳ層：暗青灰色土(カシワバン)である。土層の残存状態はおおむね良好である。調査の結果、第2トレンチ第Ⅰ層より石器を2点、表面採集で土器片を数点出土したが、遺構は確認できなかった。



図版1 作業風景 (橋谷地区)

### 3) 杉玉地区 (大字南西方字杉玉)

調査地点の現況は、林地である。試掘調査は、平成5年7月26日から8月1日までの3日間にわたって実施した。調査は重機で85cm×8mのトレンチを4ヶ所設定した。基本層序は、第0層：表土、第Ⅰ層：黒褐色火山灰土(黒ボク土)、第Ⅱ層：暗褐色火山灰土、第Ⅲ層：橙色火山灰土(アカホヤ)、第Ⅳ層：暗青灰色土(カシワバン)である。土層の残存状態は極めて良好である。調査の結果、遺物、遺構ともに確認できなかった。



図版2 試掘状況 (杉玉地区)

## 指定文化財一覧

No	名 称	種 別	指定別	所 在 地	指定年月日	備考
1	エヒメアヤメ自生南限地	天然記念物	国	大字南西方8008-1～8008-17	昭和43年6月14日	⑬
2	伊 東 塚	史 跡	県	大字真方160-2	昭和9年4月17日	⑭
3	六 地 蔵 幢 <sup>どう</sup>	有形文化財	県	大字水流迫154-6	昭和40年8月17日	⑮
4	永 仁 の 碑 <sup>えい にん</sup>	有形文化財	市	大字堤4716-2	昭和52年4月1日	⑮
5	新田場の田の神 <sup>しんでんば</sup>	有形文化財	市	大字真方5128-3	平成2年3月28日	⑩
6	穂屋下古石塔群 <sup>ほやしした</sup>	有形文化財	市	大字水流迫885	平成2年3月28日	⑭
7	大久津古石塔群 <sup>おおくつ</sup>	有形文化財	市	東方二区大久津	平成2年3月28日	⑮
8	石 氷 橋 <sup>いし こおり</sup>	有形文化財	市	北西一の東区石氷	平成2年3月28日	⑧
9	橋 満 橋 <sup>はし みつ</sup>	有形文化財	市	東方一区橋満	平成2年3月28日	⑤
10	東方大丸太鼓橋 <sup>おおまる</sup>	有形文化財	市	東方二区大丸	平成2年4月28日	⑩
11	東栗巢野六地藏幢 <sup>どう</sup>	有形文化財	市	大字東方804	平成4年10月26日	⑮
12	粥餅田古戦場跡 <sup>かゆもちだ</sup>	史 跡	市	大字北西方2450-46	平成4年10月26日	⑪
13	永久井野かくれ念仏洞 <sup>ながくいの</sup>	史 跡	市	大字北西方4160-7	平成4年10月26日	④
14	有 楽 椿 <sup>う らく</sup>	天然記念物	市	大字真方4896 外3	平成5年10月6日	⑧⑨⑭

○無形民俗文化財、動産は除く

○下記の文化財については、埋蔵文化財包蔵地地名表に記載している。

- ・県指定史跡 小林古墳6基（遺跡番号：4009・4010・4011・5016・5017・6003）
- ・県指定史跡 本田遺跡（遺跡番号：3001）
- ・市指定史跡 東二原地下式横穴墓群（遺跡番号：4012）

○備考欄の丸数字は遺跡分布地図の割付番号である。



小林市遺跡詳細分布調査報告書

平成6年3月

編集・発行

宮崎県小林市教育委員会

宮崎県小林市大字細野300

印刷 金子印刷所